

◇鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和5年度報告)

1 被害防止計画の作成数、特徴等

県下27市町村のうち、26市町村が被害防止計画を策定している。
対象鳥獣は、主にイノシシ、ニホンザル、ニホンジカとなっている。また、地域の状況によりツキノワグマや鳥類、ハクビシン、アライグマ等の小動物も対象としている。
取組内容は、対象鳥獣の捕獲、生息状況調査、生息環境の管理、追い払い活動、捕獲の担い手育成等の取組を行い被害軽減を図る計画となっている。

2 事業効果の発現状況

捕獲機材の導入、生息状況調査、追い払い活動、緊急捕獲事業など、地域毎に継続して取り組んだ結果、事業を実施した地区においては効果が現れており、相対的に事業効果が現れていると考えられる。今後も継続して対策を実施することで被害軽減を図っていく。

3 被害防止計画の目標達成状況

加害個体の増加や、生息域の拡大等により目標達成に至らない市町村もあるが、全体的には被害減少傾向にある。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

令和5年度事業評価(再評価)の状況について

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	達成状況	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
韮崎市鳥獣 害防止連絡協 議会	韮崎市	R2	イノシシ サル シカ カラス ムクドリ スズメ ハクビシン	・生息状況調査 ・捕獲機材の購入	未達成	・捕獲機材や防除機材の整備により、効果的な捕獲や防除ができた。 ・追い払い活動を行うことで被害防除に努められた。 ・集落環境診断を実施することにより、今まで以上に効果的な防除や、地区の防除意識の向上が図られた。今後も継続して実施することにより、市内全域の鳥獣被害に対する防除意識や、効果的な捕獲へつなげている必要がある。 ・目標が未達成だった理由として、サルやイノシシの生息域の拡大が大きな要因を占めている。令和5年度においては、くくり罠を各分会へ配布し、捕獲を依頼したことで緊急捕獲を行うことができた。そのため、令和4年度と比較して若干の減少は見られるものの、市街地へ出没することもあることから、さらなる電気柵の整備や緩衝帯の設置を検討したい。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲、追い払い、集落診断といった多角的な対策が講じられている。今後は鳥獣害対策の技術情報の提供などを含んだ対策を実施することにより、より効率的に被害が軽減されることを期待する。	前年度に比べ若干被害は減少したものの、被害金額・被害面積ともに目標には達しなかった。 今後も引き続き、捕獲、追い払い、集落診断などの対策を進めるとともに、新たな柵の設置や技術情報の提供などをすすめ、被害の軽減に努めていただきたい。
		R3		・追い払い活動 ・捕獲機材の購入				
		R4		・集落環境診断 ・追い払い活動 ・捕獲機材の購入				
		R5		・集落環境診断 ・追い払い活動 ・捕獲機材の購入 ・緊急捕獲活動の実施				
中央市有害鳥 獣駆除対策協 議会	中央市	R2	イノシシ シカ アライグマ	・協議会の開催 ・捕獲機材の導入 ・生態調査導入	○	・鳥獣被害防止総合対策交付金により導入した捕獲機材の活用によって捕獲数は増加している。 ・捕獲体制強化のため市内猟友会の活動連携に取り組んでいるが、新規狩猟者の確保に課題がある。 ・農家後継者不足や高齢化等により、遊休農地が拡大しており、農業委員会とも連携した農地流動化対策が必要となっている。農地中間管理事業の推進や基盤整備事業の活用により荒廃農地の解消に努めている。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 金額ベースでは目標を達成していること、また捕獲が順調に推移していることは評価できる。今後の被害軽減を目的とし、捕獲以外の対策が講じられることを期待する。	ニホンジカやアライグマの被害面積は増加しているが、被害金額については目標を達成している。 今後は捕獲以外の対策にも取り組み、総合的に対策を推進することで、被害の減少を図っていただきたい
		R3		・協議会の開催 ・捕獲機材の導入				

甲州市鳥獣害防止対策協議会	甲州市	R2	イノシシ ニホンジカ ニホンザル ハクビシン	・捕獲機材の導入 ・講習会の実施 ・生息環境管理 ・サル複合対策	未達成	・令和5年度はニホンジカ、イノシシによる被害への対策として捕獲数の増加と効率の良い捕獲活動を目的に、くくり罠と長距離無線式捕獲通知装置を導入した。 その結果、捕獲数は前年度に比べ大幅に増え、捕獲確認システムにより、わなの確認回数を減らすことができ、捕獲従事者の負担を減らし、効率的な捕獲活動ができるようになった。 ・また、当市では小動物による被害も多く、その中でも特にアライグマの被害が多かったため、アライグマ捕獲効率最適化に向けたデータ分析事業を行った。 成果として過去のデータをもとにアライグマが生息しやすい地域、行動範囲を特定し、効率の良い捕獲活動を行うことができた。 さらに、市民と協力して活動を行うことで地域住民の意識の向上も図ることができた。 ここで得られたデータは、アライグマだけでなく、ほかの小動物にも同様の効果を発揮し、令和6年度すでに多くの捕獲がされている。 ・今後は長距離無線式捕獲通知装置の稼働エリアの拡大、小型動物用捕獲檻の貸し出しの推進を行い、獣害による農作物の被害を軽減していく。また、変化していく鳥獣の動向に合わせた被害対策をしていくこととしたい。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲を中心とした複数の対策が実施されている。捕獲実績をみると効率的な事業実施が確認できるが、今後のさらなる獣害低減のために柵の積極的な利用についても検討すると良いのではないかな。	被害金額・被害面積ともに目標には達しなかったものの、被害金額では前年度から減少しており、捕獲を中心とした対策の成果が出ている。 今後は本事業で実施した調査で得られたデータを活用した捕獲や追い払い、柵の利用等も含めた総合的な対策に積極的に取り組み、被害減少に努めていただきたい。
		R3		・捕獲機材の導入 ・被害状況調査				
		R4		・捕獲機材の導入 ・有害捕獲				
		R5		・捕獲機材の導入 ・被害防除 ・有害捕獲				
笛吹市鳥獣被害防止対策協議会	笛吹市	R2	イノシシ ニホンザル カラス ニホンジカ アライグマ ハクビシン	捕獲機材導入 緊急捕獲活動	未達成	イノシシ、ニホンジカ、ハクビシン、カラスの生息数や生息地域が拡大しており被害が増えているため、貸出用の罠(くくりわな、箱わな)を買い足す等の捕獲対策の強化を図り、捕獲頭数を増やすことができているが、それでも被害が増加傾向にあるため引き続き捕獲対策を強化していく。 また、猟友会では対応しづらい河川や市街地周辺での出没が増えているため、農家には市で実施している電気柵等設置補助金を利用しての防獣ネットやバードガードなどの導入を促すとともに、農研機構が公表しているテグスを使った比較的安価なカラス除けなどの資料を配布し、自衛策の推進を促している。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 捕獲の他、柵の整備、防鳥糸の利用といった複数の対策を講じている。今後も継続した対策を実施することにより鳥獣害が軽減することを期待する。	個体数の増加などを要因として、被害は増加傾向にあり、被害金額・被害面積ともに目標を達成できなかった。 今後は河川や市街地周辺を含めて、捕獲の他、柵の整備、防鳥糸の利用等も含めた、総合的な対策に取り組んでいただき、被害の低減に努めていただきたい。
		R3		捕獲機材導入 緊急捕獲活動				
		R4		・捕獲機材導入 ・緊急捕獲活動				
		R5		・捕獲機材導入 ・緊急捕獲活動				
市川三郷町有害鳥獣対策協議会	市川三郷町	R2	ニホンジカ イノシシ ニホンザル	・捕獲機材の導入 ・講習会の開催	○	被害防止柵の設置の周知、および猟友会により田畑近辺の重点駆除が行われた結果、被害金額は減少となったものの、山間の小規模農地でシカの出没が増えた結果被害面積が想定ほど低減せず、目標を達成しなかった。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 点在する農地におけるシカの被害対策には個人を単位とした柵の設置が有効である。捕獲以外の対策についても検討されたい。	被害面積については目標未達成だったものの、被害金額については目標を達成しており、捕獲などの取り組みの効果が出ている。 今後は、捕獲だけでなく、個人単位での柵の設置などを含めた総合的な対策に取り組み、被害低減に努めていただきたい。
身延町有害鳥獣対策協議会	身延町	R2	ニホンザル	・捕獲機材の導入	○	サルの困いわなの導入によって加害個体を効率的に捕獲できるようになった。昨年と比較して被害面積・金額は減ったものの、身延町全域での目撃があり、依然サルの被害は大きく、被害軽減目標の達成には至らなかった。猟友会など専門家や地域の方と連携を取りながら更なる効率化を図る。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 ワナによる捕獲は、継続して実施すると効果が低下しやすいが、本事業では持続的に捕獲頭数が確保できている。このことは高く評価でき、今後も継続して捕獲を実施し被害が軽減されることを期待する。	困い罠設置により、継続的に捕獲はできているものの被害金額・被害面積ともに目標には達しなかった。 今後は、捕獲対策に加え、追い払いや柵の利用などの複合的な対策に取り組み、被低減少に努めていただきたい。
		R4		・捕獲機材の導入				
		R5		・捕獲機材の導入				

道志村鳥獣害 防止対策協議 会	道志村	R2	カラス カモ ニホンジカ イノシシ ハクビシン	・生息環境管理	未達成	・生息環境管理により、緩衝帯整備や森林の見回り監視等で概ね計画通り捕獲が実施できた。令和5年度捕獲実績、シカ200頭、イノシシ17頭。 ・防護柵の設置など総合的な鳥獣害防止対策を講じているが、倒木や土砂崩落等で柵が部分的に壊れ、その部分から侵入した鳥獣による被害が大きいことが目標未達成となってしまった主な理由である。破損箇所については、見回りを増やすなどして確認でき次第、修繕をしてはいるものの、野生鳥獣が破損箇所から侵入し、被害が出てしまうことがある。 ・また、被害が多い地域には、道志村猟友会に罠設置を増やす等の対策を依頼し一定の効果は出ているが、想定以上に被害が出ている。 ・さらに、農家個々の被害防止に対する関心を高めるため、村単独の鳥獣被害防止対策事業補助金制度を村の広報に毎月掲載し、多くの村民に活用してもらおう事で、被害の減少を図っている。	山梨県総合農業技術センター主任研究員 本田剛 被害防護柵の設置を増やすなど、被害低減に直結する対策についても検討することを期待する。	獣害防止柵の破損などを要因として、被害金額・被害面積ともに目標を達成できなかった。 今後は柵の管理体制を強化させるとともに、引き続き総合的な取り組みを行い、被害の減少を図っていただきたい。
		R3		・生息環境管理				
		R4		・生息環境管理				
		R5		・生息環境管理				
山梨県	山梨県全域	R5		・研修会の開催 ・技術実証	-	被害集落単位で先導的に対策の合意形成を担う集落リーダーが育成され、集落リーダーを支援する体制の構築と共に、集落ぐるみの取り組みの具体化が図られ、集落ぐるみの効果的な鳥獣害対策の継続が可能となっている。 また、鳥獣被害防止対策技術指導員の的確な地域への指導が可能となり、地域での確実な対策の実施が行われると考えられる。 今後も、地域ぐるみの鳥獣害対策の計画・実施を支援する体制の構築を図り、地域での確実な対策の実施を支援したい。		

5 都道府県による総合的評価

一部の市町村で被害金額が増加しているものの、多くの市町村では被害金額は減少傾向にあり、事業の成果は現れていると考えられる。
今後も地域ぐるみでの総合的な対策を推進し、さらなる被害軽減につながることを図っていく。